



医療教育開発センター ニューズレター

徳島大学大学院
ヘルスバイオサイエンス研究部
医療教育開発センター

1 巻頭言

センター長 安井 夏生

2 センター概要

3 副センター長の紹介

4 取組紹介

5 平成19年度の主な取組紹介

6 平成20年度の取組予定

1 巻頭言

ご挨拶

医療教育開発センター 安井 夏生



平成16年に医療教育開発センターが発足してまもなく5年目を迎えます。今まで独自の定期的な刊行物はありませんでしたが、当センターの活動を学内外に広く理解していただく目的でニューズレターを発刊することになりました。

当センターは徳島大学ヘルスバイオサイエンス研究部に所属する組織ですが、その主な役割は蔵本キャンパスにある4つの大学院（医科学教育部・栄養生命学教育部・口腔科学教育部・薬科学教育部）と3つの学部（医学部・歯学部・薬学部）の教育体制の連携・協力を支援することです。また大学院修士課程を有する医学部保健学科や同じ蔵本キャンパスに存在する疾患酵素学センターとゲノム機能研究センターとも連携を深め、それぞれの専門性を生かしつつ分野の枠組みを超えた教育支援体制の確立を目指しています。

当センターが行なってきた具体的な活動としては、大学院教育における共通科目の設定、研究科をまたぐe-learningシステムの確立、スキルラボの運営と模擬患者の養成、大学院英語特別コースの支援、faculty developmentの支援などがあげられます。

また、毎年夏の終わりに小豆島のリゾートホテルで行なってきた「大学院リトリート」も当センターが立案・計画する大切な行事です。これらの活動を通して分野横断的な共同研究が生まれ、新たな外部資金の獲得に役立つことができると考えています。

患者本位の全人的医療が実践できる医療人を育成するためには、専門分野の枠組みを越えた教育体制の確立が必要です。当センターは全力でこれに取り組みますので皆様方のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

2 センター概要

平成16年のヘルスバイオサイエンス研究部発足を機に、医療人育成教育改革を充実させ、全人的医療が実践できる人間愛にあふれた医療人を育成するための専門的な研究・支援機関として「統合医療教育開発センター」が設置されました。学部教育だけでなく、大学院教育・卒業後教育まで一貫とした医療人育成教育の取組を目指しており、医療系学部・学科の枠を越えて多彩な医療分野の教員を活用して、人間性・社会性・倫理性などを身につけ、他職種を理解し、医療の対象者や共に働く人々に尊敬の念をもてる人材を養成するための共通科目・共同実習カリキュラムを導入します。

平成18年12月に「医療教育開発センター」と改名し、医療人育成教育の研究を通じて人間愛にあふれた医療人を育成し地域医療に貢献するだけでなく、世界の指導的な医療人を育成することを目指しています。

3 副センター長の紹介 ●●●



寺嶋 吉保 (医療教育開発センター専任准教授) —IPE：専門職間教育の推進—

平成16年の開設時から当センターの専任教員として、蔵本地区の横断的な共同の授業を作るなど構想を持っていました。しかし、想像以上に学部間の壁が高くなかなか実現できませんでした。ようやく、平成17年9月27日に、医学科、薬学部、看護専攻の1年生の約250名が28の混成チームを作り、午後半日かけて「良い医療人とは？」を議論して、他の職種をサポートするにはどうすれば良いかを考えました。医学科、歯学科では進級要件として実技試験が実施されていましたが、薬学部の試行に続いて、保健学科でも初めての模擬患者を用いた実技試験が実施されました。この実績を高学年の臨床実習の中で合同カンファレンスなどへ拡大してゆく体制を整えたいと思います。(IPE: inter professional education)



羽地 達次 (口腔科学教育部 教授) —大学院で研究する楽しみ—

私は30年前に大学院に進学しました。所属した研究室は理学研究科と医学研究科の学生を受け入れており、理学部、薬学部、農学部、医学部、歯学部出身の院生10数名がそれぞれの立場で実験していました。当時の楽しみは他分野の院生と議論を交わすことであり、実験が終了した夜、あるいは実験を中止しての昼からと色々な状況で議論しました。時には殴り合い寸前の議論もありました。もし、過去に戻れるなら私は何の躊躇もなく大学院時代をあげます。いつ出るかわからない研究成果を期待して黙々と実験する楽しみ、仲間達と将来の自分を描きながら議論する楽しみ、大学院時代でなければ経験出来ないことであります。幸いに徳島大学HBS研究部には種々の分野の院生が在籍し、医療教育開発センターを中心にしてお互いが交流する場が設けられています。その機会を利用して大いに研究を楽しんでもらいたいと願います。



滝口 祥令 (薬科学教育部 教授)

薬学教育は平成18年度より6年制がスタートし、医療薬学の充実を目指した教育変革の最中にあります。幸い蔵本キャンパスは医療系学部が集約しており、医療教育開発センターを中心に学部横断型の特色ある医療教育の実践が可能な恵まれた環境にあります。本年度初の試みとして、薬学と医学、看護学の1年次生を対象に、チーム医療の基盤形成を目的とした合同ワークショップを開催しました。患者中心のチーム医療の重要性が増している中、このような学部早期の段階から協同体験を通じてコミュニケーションを図り、互いの職種を理解するチーム医療教育が注目されています。今後も学年毎に目的を設定した学部横断型教育を推進していきたいと考えておりますので、センターの活動への皆様方のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



寺尾 純二 (栄養生命科学教育部 教授)

栄養生命科学教育部は学部栄養学科を基盤として、栄養に係わる高度な専門職業人養成とわが国の栄養学を先導する研究者育成を目標に掲げています。実際にわが国の大学における栄養学教育研究の中心的存在として多くの優秀な人材を輩出してきたことを誇りに思っています。また、平成19年度に終了する21世紀COEプロジェクトでは全学一致した協力により、栄養生命科学教育部の一層の発展が遂げられました。現在は一般・社会人コースとともに、臨床栄養社会人コース(博士前期課程)を開設し、臨床栄養に関心をもつ栄養学関係の社会人を積極的に受け入れています。本キャンパスでは優れた医療人育成の一翼を担うべく学部・学科を超えた共通カリキュラムやプログラムに参加しています。センターの一員として一層努力する所存ですので、宜しくお願いいたします。



小野 恒子 (保健科学教育部 教授)

保健科学教育部(修士課程)は平成18年4月に設置され、本年3月に学年進行が終了します。これに伴い本年4月より教育部博士後期課程の設置が認められ、博士前期後期課程の整った大学院となります。本教育部は高度化、専門化した医療環境に対応できる医療人や少子高齢化社会における保健・医療・福祉に貢献できる人材育成を目標として設置されましたが、さらに後期課程において保健学の視点から看護学、放射線技術科学、検査技術科学の各分野が協力し、臨床応用を志向した学問を推進発展できる教育研究者の養成を目指しています。施設環境面では、保健学系総合実験研究棟の改修が平成20年度補正予算で認められ、来年度中の完成が予定されています。スタート地点に立ったばかりではありますが、保健医療の発展を目指す多様な学問分野を包含していることの利点を生かし、充実した大学院教育を推進したいと考えています。

4 取組紹介 ●●●

■ e-Learning

当センターでは病院医療情報部で開発したソフトを用いて大学院講義のe-Learning化に努めてきました。医療系大学院生のTA (teaching assistant) の協力を得て、授業の録画と編集作業を行い、本年度から医・歯・薬・栄養・保健の全専攻系共通カリキュラム科目(生命倫理入門、臨床心理学、英語論文作成入門、社会医学・疫学・医学統計入門)の全てと各専攻系間の共通カリキュラム科目の一部(臨床医科学入門)をe-Learningで受講することができるようになりました。これにより遠隔地に住む社会人大学院生でも自宅からe-Learningにアクセスすることができます。受講者はレポートを提出することで受講認定される仕組みとなっています。

蔵本地区の教育部の合議の下、e-Learningによる講義は通常の講義と同等に単位認定されることが決定しています。

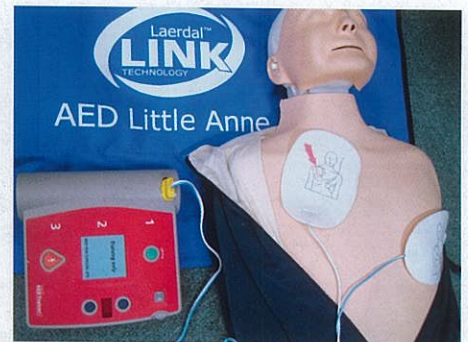


■ 臨床技能学習施設の運営

医療人の養成には臨床技能の習得が不可欠であり、学生は患者に接する前に模型を用いたシミュレーション実習を行います。

当センターが管理・運営に当たっているスキルラボは徳島大学病院の外來棟1階に位置し、様々な人体模型が配置されており、採血、導尿、縫合、心臓蘇生などの練習を行うことができます。スキルラボは医療系の各学部により幅広く利用されるようになりましたが、最近は学内だけでなく県立中央病院や市民病院などの研修医の技能向上のためにも利用されています。

一定条件の下、物品の使用及び貸出しが可能ですので、皆さんの学習にご活用ください。



■ 模擬患者の養成、派遣

模擬患者(SP)とは一定の訓練を受けて患者と同じような症状や会話を再現でき、学生の相手役となる患者役を演じる人のことをいい、多くの医療教育の現場で導入されています。近年、医学科だけでなく歯学部や保健学科でもOSCE(客観的臨床能力試験)が導入され、十分な訓練を重ねた模擬患者は今や不可欠の存在となっています。

本学でも、一般の方からボランティアを募り、現在、約15名が医学部・歯学部・薬学部で活動してくださっています。各学部の授業やOSCEでの活動に備え、毎月の定例会に加え、適時開催される勉強会にも参加いただくなど、多大な協力を得ています。各学部の担当教員の協力を得ながら、更に多くの模擬患者の養成に努めてまいりますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



■ 大学院リトリート – Tokushima Bioscience Retreat

平成17年より、学長裁量経費の支援を得て、若手研究者と大学院生が寝食を共にしながら情報交換を行う大学院リトリートが始まりました。以後毎年、夏の終わりに小豆島のリゾートホテルで行ってきたこのプログラムは、専門分野の異なる研究者が自由闊達に議論しあう場を提供してきました。今年度はCOEからの援助を得ることができ、9月20日～22日の3日間、教員・大学院生あわせて40人が参加して、例年以上に活発なプログラムを組むことができました。

また、優れた研究発表を行った3名に対し曾根ヘルスパイオサイエンス研究部長より、若手研究者奨励賞が授与されました。

例年、参加者より好評を得ています。日頃の研究成果について発表を行い積極的な交流を持つことのできる有意義な場でもありますので、今後も実施実現に向けて引き続きご協力ください。



■現代GP(H18~20年度)「医療系学生の保育所実習による子育て支援」 ～医療職(医師、看護師)を目指す学生の人間力を高める～

私たちは、文部科学省 平成18年度大学改革推進事業「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(地域貢献)」に採択された「医療系学生の保育所実習による子育て支援」事業に取り組んでいます。

2年目を終了し、補助金事業最終年度に向けての検討を重ねています。

▶取組状況

- ・平成18年度は、医学科20名をトライアル実施
- ・平成19年度は全学共通教育科目として、医学科前期45名、後期50名、保健学科看護学専攻学生70名対象に実施
- ・来年度は、さらに薬学部などの学生にも選択科目として開講し、取り組みの拡大・充実・発展を図る

このプログラムの構成は以下のとおりです(全16回)。

- ・学内演習(4回)
- ・地域の保育所における特定乳幼児との1対1の交流実習(10回)
- ・児童館における1日体験実習
- ・振り返りの会



保育所では、学生は継続的に乳幼児と1対1の交流実習を実施しています。その結果、毎週定期的に特定の大人が向き合うことにより、乳幼児には情緒的にも安定した生育が見られ、保育士の負担軽減と補助となりました。

また、学生は交流を通じて、ホスピタリティ・マインドや、自己肯定感や役立ち感を体験することにより相手の気持ちを察する感性を磨きました。他に、医療系教員(医師・看護師)が毎週現場で安全確保と指導にあたりると同時に、必要時、乳幼児の育児・健康相談を行い、地域の福祉医療にも貢献しています。

今年度の実習終了後、学生に行うアンケートの結果では、ほとんどの項目で学生の実習に対する評価は高く、前向きで積極的な態度で授業に臨み、これまでの講義や学内演習では得られなかった態度変容が見られ、短期的な効果が認められています。

この実習を通し、多くの学生が医療におけるコミュニケーション能力の重要性に気付き、母子保健や小児医療への関心を持つようになりました。☆この授業は平成19年度前期教育賞を受賞しました。

5 平成19年度の主な活動紹介-H19年4月~H20年3月-

- H19年 6月28日 第2回 CV(中心静脈穿刺)講習会
7月12日 副センター長就任(羽地氏、滝口氏、寺尾氏、山野氏)
9月20日~22日 Tokushima Bioscience・COE Retreat
10月4日 徳島大学現代GP講演会「乳幼児との交流実習」～医学生と乳幼児との交流実習の実際～
10月20日 第26回医学教育セミナーとワークショップ in 徳島
10月23日 第3回 CV(中心静脈穿刺)講習会
11月13日 ITを利用した教育に関する講演会 I「Education Technology Administrative Tools」
II「e-Learning in Medical Education」
11月21日 東京大学医学教育国際協力研究センター視察訪問受け入れ(平成19年度アフガニスタン医学教育プロジェクト本邦研修)
11月26日 副センター長交代(小野氏)
H20年 1月22日 現代GP公開講座インストラクショナルデザイン入門「インストラクショナルデザイン(ID)の原理」紹介
2月23日 徳島大学現代GP「医療系学生の保育所実習による子育て支援」シンポジウム
2月23日~24日 徳島大学現代GPコミュニケーション能力を高めるセミナー「すてきなあなたになるために」

6 平成20年度の活動予定

- H20年 6月頃 第4回 CV(中心静脈穿刺)講習会
9月頃 Tokushima Bioscience・COE Retreat
10月頃 第5回 CV(中心静脈穿刺)講習会
12月頃 徳島大学現代GP「医療系学生の保育所実習による子育て支援」シンポジウム

お知らせ

当センターならびに臨床技能学習施設(スキルスラボ)は、平成20年5月中旬頃に共通講義棟へ仮移転いたします。平成21年4月頃には臨床研究棟1階に移転し、現在の3倍の430㎡の広さになる予定です。移転中、ご迷惑をお掛けしますが、ご協力をお願いいたします。



医療教育開発センターニューズレター Vol.1 2008.3.3

編集・発行 徳島大学大学院HBS研究部医療教育開発センター
〒770-8503 徳島市蔵本町3丁目18番地の15

TEL: 088-633-9104 / FAX: 088-633-9105
ホームページ: <http://healthbio.basic.med.tokushima-u.ac.jp/tougou/>